

令和元年度（2019年度）第2回利用促進・コミュニティ交通部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和2年（2020年）2月7日（金）午前10時～午前11時30分
2. 場 所：熊本市役所 議会棟2階 総務委員会室

II 主な内容

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事

○新たな移動手段の検討について

（事務局）

資料（新たな移動手段の検討について）

参考資料（新たな移動手段の検討について）を用いて説明。

（委員）

- ・ A I デマンドタクシーの導入に際して、車いすにも対応した車両で運行を行うなど、障がい者の利用を想定した検討がなされているのか。
- ・ 説明の中で、M a a Sについても触れられていたが、今後の取り組みの予定など教えてもらいたい。

（事務局）

- ・ 運行車両については、まだ具体的な検討はしていない状況。まずはタクシー事業者が既に保有している車両での運行を行い、状況を見ながら運行車両の幅を広げていくことなども考えられるのではないかと思います。
- ・ M a a Sについては、熊本でもそれぞれの分野で研究会が立ち上がり、検討を進めているところ。福岡では、マイルートというアプリを使ったM a a Sの社会実験が好評だったことから、そのままアプリの提供を続けているという事例もある。本市でもA I デマンドタクシーの導入を検討する過程で様々な事業者と協議を行い、M a a S関連の事業者とも連携を取れるように関係性を築いている状況。A I デマンドタクシーが本格運用されるとM a a Sの一端を担うような新たな交通手段として活用できるのではないかと考えている。

（委員）

- ・ 交通事業者に対して障がい者のニーズに適切に対応できるような研修などを実施する予定があるのか。

（部会長）

- ・障がい者への対応という視点は大事な視点であると思う。今回のA I デマンドタクシーについては、まだ方向性を議論する段階ではあるが、今後詳細を検討する際に、必ず必要な視点になると思う。
- ・また、今回の検討事項に限らず、障がい者への対応ができる体制づくりは大切なことであり、事業者向けの研修といったことがすぐにできるかわからないが、今後検討していただければと思う。

(部会長)

- ・今回の資料の中で、新しいキーワードが複数あるため、ラストマイルやファーストマイルなど用語の説明も改めてしてもらえると、議論もしやすくなると思うので、簡単に説明をしてもらえないか。

(事務局)

- ・(「資料」P 3をもとに説明) 鉄道やバスなどで目的地の最寄までは行くことができるが、そこから先の移動手段がない場合の最後のあと一歩をラストマイル、またその逆の場合の最初の一歩をファーストマイルという言葉を使って表現している。

(委員)

- ・「資料」P 4のエリアイメージについてもう一度説明をしてもらいたい。機械的に範囲を決めているようにも見えるが、どういう考え方なのか。

(事務局)

- ・資料の図については、あくまでエリア設定の考え方を示したものであり、実際に導入を検討している地域を示したものではない。
また、他都市の例も示しているが、ある程度範囲を定め、その範囲で必要なタクシーの台数などを見極めたうえで社会実験を行っており、そういった議論を行うためのイメージを持ってもらうためのものとして示している。

(委員)

- ・社会実験を行う際に、自分の住んでいる地域がその実験を行う地域に該当するのかどうかを判断できるような、もう少し具体的な資料などはあるのか。

(事務局)

- ・「資料」P 5に今後のスケジュールを示しているが、今後、タクシー事業者やA I の技術を持っているシステム事業者などからヒアリングを行い、詳細を決定していく必要があると考えている。社会実験を行う段階では、エリアを示した位置図を用意する。

(委員)

- ・今後、社会実験を行う際の事業者の選定については、こういった形式を想定して

いるのか。

- ・事業者の選定過程で障がい者への対応などそういった視点も持っていただきたい。

(事務局)

- ・タクシー事業者の選定については、例えば、社会実験を行う地域をどこにするかという検討を経たうえで、市タクシー協会に相談し、該当地域で運行をしている事業者をお願いをするといったかたちがある。

また、システム事業者については、それぞれ得意不得意があるので、本市が考えている社会実験にご対応いただけるかというところを踏まえ、場合によってはコンペ形式での選定もあり得ると思う。

- ・タクシー事業者が障がい者に対応した車両を保有していれば、そうした車両を活用しながらの運行ということで対応していければと思う。

(委員)

- ・他都市での社会実験において、利用者の年齢層などはどうなっているのか。
- ・社会実験等を行うにあたり、広報が重要になってくるかと思うが、是非様々な世代の住民に届くような広報を行ってほしい。
- ・社会実験では、アプリの使用が中心になっているかと思うが、高齢者など利用が難しい方もおられると思う。電話対応も検討していただきたい。

(事務局)

- ・東京での社会実験では生産年齢人口の利用者が多く、また今回の資料には記載していないが荒尾市での社会実験においては、高齢者の利用が多かった。

- ・ご指摘のとおり、AI デマンドタクシーなど聞きなれない言葉もあるため、実際の利用者である市民にきちんと理解してもらうことがひとつの課題であると思う。

本市で社会実験を行う際にも、回覧板や本市の LINE での広報など様々な広報手段を用いて、幅広い世代の方々に利用していただけるようにしていきたいと考えている。

- ・アプリのみでの予約対応では、高齢者の方など利用が難しい場合もあると思うので電話による予約や、今後の事業者との協議次第にはなるが、オペレーターによる予約の相乗り調整なども検討していきたい。

(部会長)

- ・静岡市の事例では市内の街中までエリア設定されていて、そこまで相乗りタクシーで移動できるかたちになっている。

熊本市では、どういふかたちを目指すのかということをしかり整理しておく必要があると思う。社会実験を行う地域が決まっているわけではないが、例として健軍地域で話をさせてもらうと、相乗りタクシーでの移動を例えば健軍電停周辺までとするのか、街中まで移動できるようにするのか、そのあたりの考え方を教

えてもらいたい。

(事務局)

- ・他都市の事例などもみると、料金設定と合わせて検討していく必要があると考えている。例えば、ラストマイルやファーストマイルの短距離移動の部分と中心市街地等までの長距離移動の部分というものを、組み合わせて運行した場合、ラスト・ファーストマイル部分の料金設定と市街地までの料金設定を分け、長距離移動の部分については、通常のタクシー料金と同じ設定で運行しているケースもある。また、一方で料金設定の分かりやすさという観点も必要かと思うので、これからエリアの設定などを検討していくなかで、最も適した設定はどういったものかということを決めていきたい。

(委員)

- ・本来であれば、事業者自身が考えなければいけないことであるが、今回市が提示した社会実験等のたたき台については、首都圏や中心部等での社会実験を踏まえた上でのものであると思う。東京や中心部のやり方をそのまま取り入れるだけではなく、地方に合ったやり方もきちんと考えることが必要だと思う。
- ・相乗りタクシーについて、熊本でどれだけ需要があるかという問題もあるが、地域性、県民性として相乗りを嫌がることもあるのではないかと思う。
- ・実際に導入する際は、バスとのすみ分けをしっかりと、協調しながらやっていく必要があると思う。
- ・業界として対応できるところとできないところは様々あるが、今後も協議を重ねながら取り組んでいきたい。

(事務局)

- ・ご指摘いただいた課題等については、他都市にヒアリングをする過程でも同様の話を聞く機会があった。熊本で相乗りタクシーが受け入れられるのかは、社会実験をどうするかたちで行うのかというところでどれだけ工夫できるかによると思うので、いただいたご意見等をもとに検討を重ねていきたいと思う。

4. その他報告事項等

○公共交通空白地域・不便地域等のコミュニティ交通について

(事務局)

その他①を用いて説明。

(委員)

- ・芳野さくらバスについては、運行車両をジャンボタクシーから小型タクシーに変更したりするなど、これまでも様々な工夫を重ね、定時定路線での運行を継続してきた。しかし、現在の利用状況からすると、デマンドタクシーの方が地域の実

情に合致しているように思う。

○バスロケーションシステムとバス待ち処の状況について

(事務局)

その他②を用いて説明。

(委員)

- ・既に工夫はされていると思うが、店舗に貼るステッカー等をより分かりやすくしたり、バス停の場所がわかるように地図などの掲示もしていただければと思う。

(事務局)

- ・バス停とバス待ち処が少し離れたところについても、バス停に周辺の地図を貼っており、バス待ち処の場所を示している。それにより、それぞれの位置関係を把握していただけるのではないかと思います。今後もわかりやすい表示等について、検討していきたい。

○県内バス電車無料の日の実施結果等について

(九州産交バス株式会社)

その他③を用いて説明。

(委員)

- ・商業施設等と連携しながら、買い物とバス利用を関連させて利用促進を行うなどの検討はできないか。

(九州産交バス株式会社)

- ・ご意見のあったように、交通手段と目的を一体的に捉えるような取り組みも検討していきたい。今回は桜町の開業があったが、何かイベントなど合わせられるものがないか、日程調整を行っていきたい。

(委員)

- ・せっかくのいい取り組みなので、遅延対策なども含めてより良いものにしていてもらいたい。

(部会長)

- ・熊本発の取り組みで、非常にインパクトのあるものだと思う。イベント以降も公共交通の利用者が増えているというのは、良い材料だと思う。
- ・今日、この場で出た様々な意見をもとに、次回の部会等で議論を進めていきたいと思う。
- ・議事を終えたので、その他に意見がなければ本日の部会を終了する。